

## 平成29年度 学校自己評価表 ( 計画段階 ・ 実施段階 )

福岡県立田川高等学校長 印

No. 1

学校運営計画(4月)		評価(3月)			
学校運営方針	校訓「水平線上に突起をつくれ」の精神を重んじ、いかなる時代にあっても五常の徳目『仁・義・礼・智・信』を有し、地域はもとより国際社会に貢献する人物の育成に努める。	A			
昨年度の成果と課題	29年度 重点目標				
昨年度は、進路指導や広報活動の充実、創立100周年記念事業に向けた地域・PTA・同窓会との連携強化、「新たな学びプロジェクト」研究開発校としての取組等を通して学校全体が活気づき、生徒の進路実績も向上した。本年度も、「アクティブハイスクール田川」を学校のスローガンとして掲げ、授業改善や創意工夫した粘り強い指導と教育活動を通して、さらに多くの生徒の第一希望進路の実現を達成させ、生徒・保護者・地域の期待や信頼に応えうる教育活動を展開していく。そのために、一人ひとりの教職員がチームワークを大切に、教育の最前線に立っていることを自覚して、専門職としての自覚と誇りをもって教育に当たっていくことが必要である。	具体的目標				
	自ら考え、判断し、自分自身の行動に責任の持てる主体性に富んだ人物の育成 真理を探究することの喜びを体得できる生徒の育成		職員研修等により教師力向上を目指し、全校あげて「田川アクティブ・ラーニング(TAL)」に基づく授業方法の改善に努め、質の高い授業を実践する。		
	規律と責任を重んずる生徒の育成		挨拶の励行や、校則の遵守等、家庭と共同して基本的な生活習慣の確立と社会の規範意識の形成に努めるとともにボランティア活動にも積極的に取り組む生徒の育成に努める。		
	人権尊重の理念と人間尊重の精神に満ちた、感性豊かな生徒の育成		教育相談機能を充実させるとともに、心の教育の推進に努め、人権尊重の精神の涵養と、豊かな感性を持った人物の育成に努め、安心・安全な学校づくりを目指す。		
	自分自身の資質と能力を十分に発揮し、自らの進路を明確な目標を持って選択できる生徒の育成	スーパー特進クラスの充実・発展に努めるとともに、全生徒の自尊感情を高め、個に応じた指導を徹底する。			
	志を持って意欲的に学び、自律心と思いやりの心を持つたくましい生徒の育成	「水平線上に突起をつくれ」の精神を喚起し、たくましい田川健児を育成するため部活動加入率80%を目指すとともに、スーパー特進クラスが高い志を持ち、学習面において本校の牽引役となるよう指導に努める。			
	中学校及び地域への発信、学校HP及び広報紙の充実	定期的かつ時宜にかなったHPの更新とポスターの作成、職員・生徒による小・中学校や学習塾への訪問など計画的・積極的な広報活動に努める。			
	創立100周年事業を通じたPTA・同窓会活動等との連携強化	PTA・同窓会諸活動への職員の積極的参加を図るとともに連携して100周年記念事業を行う。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
教 務	職員研修等により教師力向上を目指し、全校あげて「田川アクティブ・ラーニング」に基づく授業方法の改善に努め、質の高い授業を実践する	アクティブ・ラーニングの感想を求める授業アンケートの素案を6月までに作成・協議し、2学期以降、年2回アンケートを実施することで、授業の検証をおこなう。 各教科・科目で実施されるアクティブ・ラーニング型授業の回数把握に努め、年間の成果として公表できる形にまとめる。	C B	B	・授業アンケートを実施できなかった。担当の係を年度当初に設定することで、来年度の実施をめざす。 ・100周年記念事業の実施と関連したため、夏季合宿セミナーの実施は見送ったが来年度には実施に支障がなく、実施の手順や充実に向けた方策も引き継がれた。また、東京研修の取組が定着した。 ・広報ポスター「田川高校へ行こう」は計画どおりに作成・配布ができた。在校生による広報活動を計画・実施したが、実施時期について問題が多く、年間行事計画の立案において検討を深める。 ・「アクティブ・ハイスクール田川体験授業」には中学生254人、保護者94人の参加があった。終了後のアンケートでは、当日の内容に対して4段階で最高の評価を8割の参加者が回答し、普段の田川高校の印象についても同じ評価を7割の参加者が回答した。来年度に向けては、実施時期と回数についての検討が必要である。
	スーパー特進クラスの充実・発展に努めるとともに、全生徒の自尊感情を高め、個に応じた指導を徹底する	夏期セミナー合宿や東京研修など、独自の行事を継続させる。 毎学期各教科ごとに学習成果をまとめ、改善・強化のポイントを明確にする。	A B		
	PTA・同窓会諸活動への職員の積極的参加を図るとともに連携して100周年記念事業を行う	『百周年記念誌』作成について、全職員に向けた協力依頼を行う。 PTA関連の業務に携わる人材の育成を意識した業務遂行に取組む。	A A		
	定期的かつ時宜にかなったHPの更新とポスターの作成、職員・生徒による小・中学校や塾への訪問など計画的・積極的な広報活動に努める	広報ポスター「田川高校へ行こう」の年3回の作成と効果的な配布に加え、100周年事業に関連した広報活動を行う。 8月24日に実施する「アクティブ・ハイスクール田川体験授業」を学校全体で取組む行事として位置づけ、行事の企画・運営の中心的役割を果たし、200人以上の中学生の参加をめざす。	A A		
	記念行事・学校行事及び部活動に積極的に取り組む	記念行事に向けて、生徒会をはじめ部活動の活性化のために全校応援練習等を通して学校活性化に繋げる。 100周年の式典に向けて式が厳粛に行われるよう日頃から意識させる。	A A		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と礼節及びマナーの重視	身の回りの整理整頓を各教科・学年と連携し、靴・補助バッグ・部活動バッグの並び、集会時の靴の並びをしっかりとさせる。 挨拶の励行をはじめ、場をわきまえた正しい礼儀及びマナーを身につけさせる。	A B	A	創立100周年記念行事等における成果を次年度につなげ、さらに発展させることが重要である。また、よりよい人間関係づくりや、自他の感情をコントロールすることができるようにさまざまな場面で取り組みを検討する。 ・校内における生徒の状況は、落ち着きが見られるようになってきているので、今後も基本的な生活習慣が乱れないように、継続的に指導を続けていく。 ・本年度は登下校時のマナーについての苦情は減った。来年度も全職員で取組む体制をさらに強化したい。 ・美化コンクールの取組がスムーズに展開できるように工夫する。近隣の駅までの通学路の清掃活動を検討する。 カウンセラー等との連携を密にし、全職員で生徒の対応をする。
	安全かつ効果的な教育活動を行う	様々な集団の中で「いじめ」を未然に防止する。アンケートを毎月行い、全職員で生徒に対してアンテナを立て情報を共有する。 交通安全指導の徹底をする。特に自転車通学生のための講演会、一本松駅からの登校を強化する。	A B		
	校内・校外の清掃美化に積極的に取り組む	年5回の「美化コンクール」実施、月末大掃除の徹底を図り校内整備に努める。 生徒、職員全員で一斉に掃除に取り組む。また大掃除の際には、近隣の駅等の清掃も行う。	B B		
	キャリア教育の観点に立った進路学習を推進する	年間5回の進路HRと総学「総学蒼鷹」とを連携させ、生徒が主体的に進路選択できるように、情報を提供するとともに、選択する能力を高める。 学部や学科の研究をすることで、広い視野をもって自分にあつた進路目標の設定につなげる。 100周年に向け、同窓会等と連携し、講演会や交流会等を実施し、進学や職業への意識を高める。	A A A		
進路指導	希望進路実現に向けての計画的組織的な教科指導の徹底に努める	大学入試センター試験を始め各大学の入試問題研究を十分に行い、新課程入試に対応した指導力向上の一助とする。 課外授業を含めたシラバスを作成し、全体を見据えた効果的な指導を行う。 新しい入試制度についての情報を収集し、教務部との連携を図り、カリキュラムやキャリア教育の計画を練り直す。 英語科と連携し、「英語・検定試験」の受験を促進を図る。	B A B A	B	・1年生は新入試制度の対象学年となるため、各方面と連携して対応を図る。 ・補講については、年度当初に受講意志の確認をとる。 ・模試については、原則希望制とするが、進学の意志がある者には、その必要性や、効果等をしっかりと理解させた上で判断させる。 ・GTECについては英語科と連携をとり、模試と同様に取り扱う。  ・大学入学共通テストに向けた指導の在り方についての研修を実施する。 ・生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、引き続きALの視点に立った授業改善に対する取組を実施する。 ・授業改善の一環として、予備校における教員研修の案内を随時行う。  ・生徒にさまざまな書籍を紹介し、朝の読書を充実させる。
	希望進路実現に向けての個に応じた指導の充実および、情報収集に努める	担任をはじめ教科担当者、部活動顧問と連携した個人面談を充実させ、生徒一人ひとりに適切な指導を徹底させる。 模擬試験後は、必ず進路検討会にて生徒情報の共有化を図り、組織的な指導を行う。 ファインシステム使用者を全担任、各学年進路担当者に拡大し、模試の分析や、進路に関する情報入手の効率化を図る。また大学との連携による出前授業や卒業生による講演会などを実施し、進路意識の高揚を図る。	A B A		
	職員研修の充実に努める	各教科・科目にAL型授業を推進するため、5月に全職員向けの研修を行う。 ALの視点からの授業改善に向けて、校内研究授業を各教科1回ずつ、新たな学びプロジェクトの研究授業を2回実施する。 教職員の資質・能力の向上を目指して、各分掌と連携しながら各学期に1回程度職員研修会を計画・実施する。 研究授業及び各種研修会の報告や個人研究などを広く職員に求め、紀要にまとめる。	A A B B		
	図書館活動の充実に努める	読書・学習を展開する場所として、図書館を計画的に整備し、利用を促進する。 選書委員会により、購入図書を選定し有効活用を図る。	B B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	
第1学年	生徒一人一人が大切にされていると実感できる学年	学習活動において、生徒を一人の人格として尊重し、生徒の意欲やニーズをもとに個に応じた指導の充実を図り、TALを導入する。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習や進路に対する意識を深化・充実させる。</li> <li>・生徒間や教員との人間関係の構築のためにお互いの立場や気持ちを考え行動し、つながりを深めていく。SNSの使用法などを通じ、コミュニケーションのあり方を考える。</li> <li>・学年として、生徒一人ひとりに向き合い、生徒、保護者とのコミュニケーションを図る。</li> <li>・キャリア学習充実を図り、進路情報の積極的、かつ適切な収集と体験を通じた</li> </ul>	
		人間関係づくりにおいて、生徒の生活背景や実態を正確につかみ、生徒間や教員との人間関係の構築、コミュニケーション能力の育成。	A			
		環境づくりにおいて、教室環境の整備や清掃の徹底をはかり、おちついた学習環境を整える。	A			
	確かな学力の育成	生徒一人一人の個性や教育的ニーズを把握し、学習意欲を高め、授業の充実を図る。	A			
効果的な学習教材の活用や小論文指導の早期導入と職員の意識向上。		A				
キャリア学習を充実させ、将来の進路をイメージさせた学習内容の検討、実施。		A				
第2学年	規律ある生活習慣の継続	安易な欠席・遅刻・早退の防止し、皆勤者100名をめざす。	B	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・安易な欠席に走る生徒は人間関係の構築が苦手な生徒が多いため、引き続き家庭との連絡を密に行う。</li> <li>・部活動生の積極的挨拶のきっかけで、一般生徒の挨拶も向上した。次年度はこれを進路決定につなぐことが課題。</li> <li>・小テストクラスマッチで、作戦を立てることとあきらめない心の大切さを学んだ。部活動や進路決定につなぐことが課題。</li> <li>・成績不振者への考査前指導を継続するが、他学年や部活動への連絡を密にし、迷惑をかけないようにする。</li> <li>・部活動生が有終の美を飾れるよう、学年として応援する。</li> <li>・部活動生以外の生徒は放課後の自学の場所を確保し、奨励する。</li> <li>・難関大学進学希望者への個別指導。</li> <li>・保護者への奨学金等の情報提供。</li> </ul>
		運動部員に模範となるよう指導し、さわやかな挨拶、正しい敬語を使うよう指導する。	A			
		保護者との連携を密にはかり、積極的な生徒指導に努める。	A			
	基礎学力の向上	毎日(毎時間)宿題を課し、学習の習慣化を図る。	A			
		小テストクラスマッチ等を活用し、クラス全体の学習意欲が向上するよう工夫する。	A			
		定例の担任会議、不定期の学年会議等で、成績不振生徒の把握に努め、早期対策を立てる。	A			
	進路希望実現への努力	大学オープンキャンパスへの参加を義務付け、大学、学部、学科研究を行う。	A			
		放課後自習教室で大学進学希望者の増加を図る。	B			
		個別指導を行い、数学オリンピック等へのチャレンジを奨励する。	B			
	豊かな心の育成と異文化理解教育の推進	担任会議、学年会議、教科会議等で気になる生徒の早期発見に努める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例の担任会議で気になる生徒の把握を継続し、保健室との連携も留意する。</li> <li>・部活動生が有終の美を飾れるよう、学年として応援する。</li> <li>・体育大会に向けてのリーダー養成。</li> <li>・部活動引退から学習中心の生活へのスムーズな移行。</li> </ul>	
		個人面談、教育相談等を充実させ、生徒一人一人の悩みの解決に努める。	A			
		SHR、HR活動を効果的に活用し、自分と異なる考えを認め、尊重する態度を養う。	B			
田川高校生としてふさわしいプライドの確立		第2学年として創立百周年を迎えることを意気に感じるよう指導する。	A			
		学年集会や学年行事を活用し、生徒リーダー育成に努める。	A			
地域のボランティア活動等への積極的参加を促し、地域に信頼される学校を目指す。	B					
第3学年	自己実現に向けた進路意識の向上と希望進路の実現	時宜に応じた個人面談の充実と継続をはかり、模試の結果や進路講演会をきっかけとした進路意識の向上を促す。	A	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学以来、集団の一員としての自覚に基づく基本的生活や意識高揚を継続</li> <li>・学年生徒全員が共通して掲げる目標の設定と、折に触れての教員も含めた学年全員による目標の確認</li> <li>・マニュアル化した指導に拘泥せず、状況に応じて生徒自身に考えさせる指導の継続</li> <li>・行事の成功を通じて味わう達成感の更なる機会拡大</li> <li>・多様化する社会情勢に応じた保護者や地域との関係構築方法の工夫</li> </ul>
		生徒を中心として保護者と学校が意思疎通をはかることで進路情報の共有をはかる。	B			
		基本的な生活習慣の定着と継続をはかるとともに、進路実現に不可欠な学力の充実と発展につとめる。	A			
	100周年に関連する行事を含め、あらゆる学校行事や部活動における中心的役割を担った積極的な参加と貢献	各行事への積極的な参加を促し、各々における成功体験の蓄積をはかる。	A			
		諸活動への貢献や社会的貢献の実感と意識に伴う精神的向上の促進。	A			
人権・同和教育	職員研修に充実に努める	生徒諸活動への支援充実によって学校ならびに社会の牽引力たり得る志ある人材の育成。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外研修を配布資料や文書で校内に還元する。</li> <li>・校内実践交流会では、全員の実践レポートの内容を、班別協議等で交流する。</li> <li>・奨学金の案内を繰り返し行い、必要な家庭に情報が行き届くような工夫が必要である。</li> </ul>	
		全職員が県教育委員会・研究団体等主催の研修会や学習会に1回以上参加し、人権・同和教育への主体性と指導力を高める。	B			
	人権意識と行動力を備えた生徒の育成に努める	本校の課題の即した校内研修会を通して、人権尊重の学校づくりに取り組む。	A			
		年間計画に沿った人権・同和教育の校内研修会を適宜に実施し、人権尊重の学校づくりに取り組む。	A			
		授業等を通して教科での人権・同和教育を行い、学力保障と人権意識の高揚を図る。	B			
	家庭、地域、中学校との連携に努める	生徒の地域活動を支援し、差別をなくすための実践的行動力を育成する。	B			
家庭訪問を積極的に行い、保護者とともに生徒の課題を克服していく。		A				
生徒の状況について中学校や地域と緊密に連携し、課題の克服につなげる。		B				
		HR活動での人権学習を地域に公開し、人権・同和教育の改善・充実を図る。	A			